

皇紀二五九五

日一月一

常磐每日新聞

刊日

定価 一部金五銭 一月金五拾銭 郵税五銭
 廣告料 五銭 十二字 詰一行 金五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

辭の年新

律呂竝に改りて、昭和乙亥第十春の新乾坤は吾人の前に展開した、然も是れ、愈々來つた一九三五年の非常時新春である。

國際難局に直面せるわが日本が、國運の進展を阻まれざらんが爲めには、今はあらゆる慘苦を嘗むる覺悟がなければならぬ、而して國內的幾多難關の打開も亦、絶大なる國民的努力に俟たねばならぬ、だが果して吾人の理想たる世界平和の確保に到達し得べきや否や、前途決して樂觀を許さぬものが多い。

然し乍ら天に二日なく、正義は飽くまでも正義である、而してわが日本の固持する國際正義の主張こそは日本國民の旺盛なる意氣と、熱烈なる誠意と、強大なる實力とによりて、必然的に貫徹せられねばならぬ筈である。

國難民禍、相踵がば踵げ、それはたゞわが日本國民に對する試練以外の何ものでもあり得ない。

知らずや、穆々上にあり、明々下にあり、君臣一如、蓋しわが日本正義の世界的徹底を期して待つべきである。

今や大天大地、新光に輝き新色に蘇る、吾人大白を擧げて非常時日本の前途を壽かん。

昭和十年一月一日

常磐毎日新聞社
同人

市制を前途に

多望の本年

平町長 青沼鋒太郎氏 (談)

年頭に當り本町自治の實績を顧みますると、財界の不況に處し、協力一致の實を擧げ、堅實なる町勢の發展刷新に努め、納税の成績此れを前年に比較いたしますれば、は稍々

良好なるを認め、傳染病患者の發生減少したるか如き、意に悦ぶべき現象であります。又土木交通の事業は第六號國道一町目より四町目に至る街路の鋪装を終り、夏井川改修工事も亦進捗いたし、既に鎌田町地内に及び更に之が付帯事業たる古川大改修も

着工近きにあらんとし、其他町道路の改修補修等々完成を告げ、高麗橋の竣功開通は交通の便備はると共に本町に一つの美觀を添ふ

降雨毎に 氾濫したる

悪水の被害を蒙ることなく其効果の著しきを認めらるゝことは、悦ばしき次第であります。更に都市計畫法に依る平町都市計畫事業は、内務大臣の指定に依り順調に進捗しつゝありまして、今や發展の途上にある吾平町も、市制施行を目標といたしまして、舊年末之が調査機關を設け、具体的調査を進行せんとする準備中であり、更に教育に關する設備は、町勢の進展に伴ふ

就學兒童 増加の趨勢

に依り、前年來の懸案たる第四小學校及び大運動場の設



東横 天大 紅筆

不眠不休の 罐詰局員が

仰ぐけふの日

あふる、年頭の訪れ

新春の吉報を各家庭にバラまく年賀郵便は、平郵便局に於て舊臘廿日より廿九日迄取扱ひは引受中繼配達を加へ、總數實に百二十二萬二千六百二十一通に達し、前年より九萬三千三百五十六通の増加を示した其内引受数は卅五萬七千三百八通で、昨年より

引續き着工の筈であり、まして小名濱築港完成と同時に開通を見るに至ること、存じます。斯く算へ来りますれば、平町の前途益々望み多きと思はしむるのであります。されば我平町は須らく、舉町一致今後の發展向上に邁進せねばならぬと信ずるものであります。

正月の「お天気」

くつれぎみ

湯の岳山上に初雪輝き、愈よ本格的の寒さが襲來したさへ、氣になるのは正月の天候、小名濱測候所の觀測に依れば、

どうも崩れ氣味ですが、元朝には持ち直すとせう、正月三日間はまづ晴れたり曇つたり、或はひは場所により小雪が飛ぶかも知れません。

商店街の 猪突猛進

春氣期期待

炭礦の黄金時代現出、漁濱の大漁續き等の好條件に恵れ、然も凶作騒ぎの渦中から免れた上に、愈よ平小鐵道起工の慶びに浸る事の出来る

平町は新春を迎へ、一層生氣瀟々たるものあり、商店街等も春氣に多々な囂望を、保ち本年の初荷の動き等も例年に増して旺盛さを見るであらうが、更に農家も匡救工事で割合に懐中が温い模

様の處から舊正月に一層の期待を掛け、新春を迎へてもなく、矢張り早く舊年末の準備に取かゝり、亥歳だけに猪突猛進の飛躍を試みるに至るであらうと

正月の 人出に 期待を掛くる 平驛の繁忙さ

平驛の舊臘押迫つた廿五日から卅日迄の乗降者は平常八百名臺のものに左の如く激増

日付	乗車	降車
廿五日	一〇五	一〇三
廿六日	一五五	一〇九
廿七日	一四〇	一三三
廿八日	一七六	一三七
廿九日	一三三	一〇二
卅日	一三三	一〇二

して居るが、前年との比較では大差がないので、同驛では正月七日間の人出に期待を掛けて居る。

消防出初め

吉例の平消防出初めは新春四日に催され、イナセな梯子登りが街頭各所に演ぜられる。

太郎社中

後一、五〇管絃樂 日本放送交響樂團



の且元

朝 前六〇〇 靖國神社歳旦 國威宣揚祈願祝賀 靖國神社中繼

吹奏樂 日出る國 報國 吹奏團 愛宕山公園中繼

前七、一〇 奉祝唱歌と年頭の辭女子放送合唱團

岩原謙三 前七、三〇 明治天皇御製 講話 石井菊次郎

前八、〇一 春の鳥 「池邊鶴」觀世左近

後一、五〇 雅樂 「平調音取」宮内省樂部

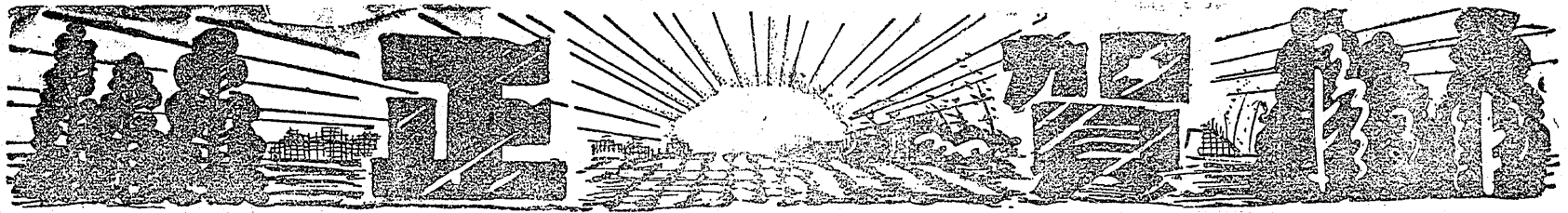
夜 後六、〇〇 童話劇三部曲 輝く日本 一東京童話劇協會

後六、二五 講演「年頭の所感」岡田總理大臣

後七、三〇 詩吟 大藤博之

後七、四五 長唄 連獅子 芳村伊十郎他

後八、一五 常磐津「子寶三番更」常磐津松尾太夫 後八、四〇 舞臺劇「仙代萩御殿の場」中村歌右衛門他



鹽屋
金山崎合名會社

釜屋商店

山田文一商店
平町仲町通り
(銅鐵商) 電話二六二番

大一屋善吉
平二丁目 電話一三番
明治生命保險平代理店
明治火災保險平代理店

平運輸株式會社
平驛前

平電力株式會社
平驛前

特許第一八七四三〇號
石山式石綿ムシカマド本舖
地球印

石山忠三商店
平材木町電一三七番

砂利請負
神谷商會
神谷兼治郎
平驛前電六六五番

銘酒白馬の雪釀造元

松本徳一
石城郡平窪村

旭屋一六銀行

小野伊佐治商店
平町三丁目 電話四二五番

御旅館
住吉屋本店
平紺屋町 電話一五九番

割烹
谷口樓

割烹
末廣
平田町 電話四二二番



御料理
石川亭
平田町 電話四三番

割烹
とさわ
磐城平松ヶ岡公園内
電話二二六番

御料理
八千代
平田町 電話三七五番

御料理
君乃家
平田町 電話三八二番

時計と眼鏡
星野時計店
平町三丁目
驛前通り

住吉屋本店
常陸セメント海岸線特約店
田町電話六六一番

大塚製靴部
運動具部
店主 大塚鳳三郎
平田町電話七七番

サクラ寫真館
諸橋嘉吉
平田町

吉伴鐵工場
平 電話二二五番

閑靜家族的・増築落成
旅館
會津館
館主 金澤清
電話六四八番

青木寫真館
平南町
電話四二二番

藤寅カマ店
平町一丁目
電話一四一番

岡山寫真館
平南町川岸通
電話六一五番

金物商
宗像金物店
平町 研町

西洋料理
福壽軒
平田町
電話二八番

漆器商
和久井屋
平町一丁目
電話四〇五番

百澤商店
株式會社
平四丁目

市原商店
平町一丁目
電話二四四番

西村屋藥舖
平町二丁目
電話三三番

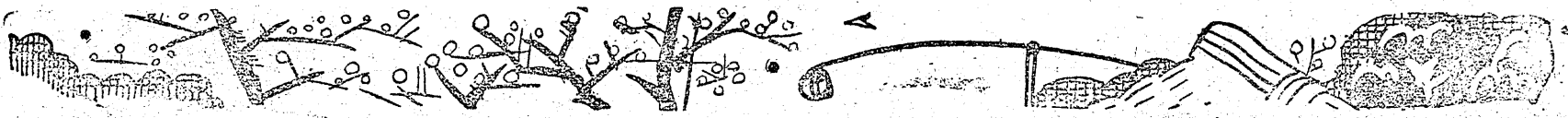
平三丁目
丸ほん商店
營業所電話三五九番
製作所電話一八二番

荷札、封筒、紙袋製造販賣
小谷製袋店
平町南町七六
電話一四七番

印伴天專業
草野染工場
平鎌田町電三四八番

製菓問屋
高岡屋
平 研町
電話四〇六番

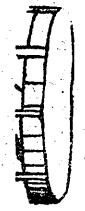
平銃砲火藥店
二丁目電四四一番



戀のホームラン (上)

(ユーモア) 小説

樋口悦也 作
樋治英介 作



紺碧の空に九一式の戦闘機が翔んでゐた。
『春だな……?』

梨地三太郎君は、學生時代から下宿してゐる下宿の學朋館の二階で卒業後の正月を始めて迎へることになつた。階下から匂つてくる雑煮の香を氣にしながらか戸外を眺めて呟いた。
『あれあんなどころで犬の奴が……』

虎太郎君は下宿の窓下でブルテリアとセッターまがひが春を楽しんでゐるのを見附けた
『あてつけやがら……』

虎太郎君は愛鬱だつた。映畫に出て来る『大學は出たけれども』と云ふ奴を生地で行つてゐる三太郎君だつたのだ。

下宿住ひの悲しさに屠蘇はおろか雑煮さへ有りつけないのだつた。窓の手摺に腰をおろして、煙草の煙で輪を作りながら爪の競争を感心してゐた。

卒業以來履歴書は反古屋の荷になるほど書いて見たが、梨の礫で音沙汰がなかつた。

この閑静で退屈な三太郎君の部屋に『ドカン』と時ならぬ大音響が起つて本箱の

上の鏡が木ッ葉微塵になつた。——三太郎君は鳩が豆鉄砲を喰つたやうに目ばかりを動かしてゐた。

『小父さん、ボールを取つておくれよ、僕のボールが小父さんの部屋へ飛びこ



んだのだよ』

窓下へ少年群が襲來して叫んだ——それで始めて一大音響の、原因が解決つた。

『や、や?』
三太郎君は壊れた鏡を抱いてベンをかけた。だが相手が悪いので喧嘩にならなかつた。三太郎君は本箱の隅にやつとボールの存在を

みとめて、モーション好らしく、——
『第一球のかまへ!!!』
少年が下から聲援した。
『投げました投げました、球はグン／＼延びて——』
少年達は球を見送つて喜んだ。少年達の云ふ通りに三太郎君の球はグン／＼延びた。とつて来た。

『あ……?!!!』皆は口を開け放しにしてしまつた

『球は飛んで行つてしまつた。』
『小父さんいやだ。——球を取つて来てくれなきやア』

『あ?!?!』と、三太郎君が仰天した。
それもその筈、三太郎君の目的の品が、世にもすさまじいブルドックの口に啣へられてゐるのであつた。

『何誰?』
木の影から、春の小川のやうな明朗な聲が、泥坊猫のやうな恰好の三太郎君の頭上へ響いた。

腕に覚えのある三太郎君の投球は延びすぎてしまつて、向ふのお郎の塀のなかへ飛こんだ。
『小父さんが好いのを買つてやるよ。ね、坊やは好い子だらう?……』
『あの球でなきやアいや

だ』
少年は三太郎君のなだめやすかしに聞かなかつた、三太郎君は決心した。
『ちや取つて来てやるよ』
詮方なく三太郎君は下駄を突つけて表へ出て来た少年達は面白さうに、ぞろ／＼とつて来た。

『皆な静かに待つてゐな小父さんがいま取つて来て上げるから——』
門前に子供達を止めて置いて三太郎君は旅順口閉塞にでも向ふやうな決心で、耳戸から邸内に忍びこんだ

『あ?!?!』と、三太郎君が仰天した。
それもその筈、三太郎君の目的の品が、世にもすさまじいブルドックの口に啣へられてゐるのであつた。

『何誰?』
木の影から、春の小川のやうな明朗な聲が、泥坊猫のやうな恰好の三太郎君の頭上へ響いた。

腕に覚えのある三太郎君の投球は延びすぎてしまつて、向ふのお郎の塀のなかへ飛こんだ。
『小父さんが好いのを買つてやるよ。ね、坊やは好い子だらう?……』
『あの球でなきやアいや

だ』
少年は三太郎君のなだめやすかしに聞かなかつた、三太郎君は決心した。
『ちや取つて来てやるよ』
詮方なく三太郎君は下駄を突つけて表へ出て来た少年達は面白さうに、ぞろ／＼とつて来た。

『皆な静かに待つてゐな小父さんがいま取つて来て上げるから——』
門前に子供達を止めて置いて三太郎君は旅順口閉塞にでも向ふやうな決心で、耳戸から邸内に忍びこんだ

『あ?!?!』と、三太郎君が仰天した。
それもその筈、三太郎君の目的の品が、世にもすさまじいブルドックの口に啣へられてゐるのであつた。

『何誰?』
木の影から、春の小川のやうな明朗な聲が、泥坊猫のやうな恰好の三太郎君の頭上へ響いた。

腕に覚えのある三太郎君の投球は延びすぎてしまつて、向ふのお郎の塀のなかへ飛こんだ。
『小父さんが好いのを買つてやるよ。ね、坊やは好い子だらう?……』
『あの球でなきやアいや

株式会社 福島貯蓄
銀行平支店

湯本信用無
盡株式會社
湯本町
電話四七番

郡山無盡株式會社

平出張所
鍛冶町
電話一〇番

平材木商組合

平砂糖商組合

自動車協會
平支部

福島縣第二區
凍氷仲買人組合

一德會社
平支店
南町

諸橋外科醫院
諸橋鐵彌
平新川町
電話四六四番

渡邊醫院
渡邊久
平町鼠坂
電話一六一番

福島縣會議員

井上茂作
野崎萬藏
萩原義雄

常警毎日印刷株式會社監査役

辯護士 門傳清吾
平町紺屋町(電話二四)

石城銀行組合

平町土木建築請負業組合

平藝妓屋組合

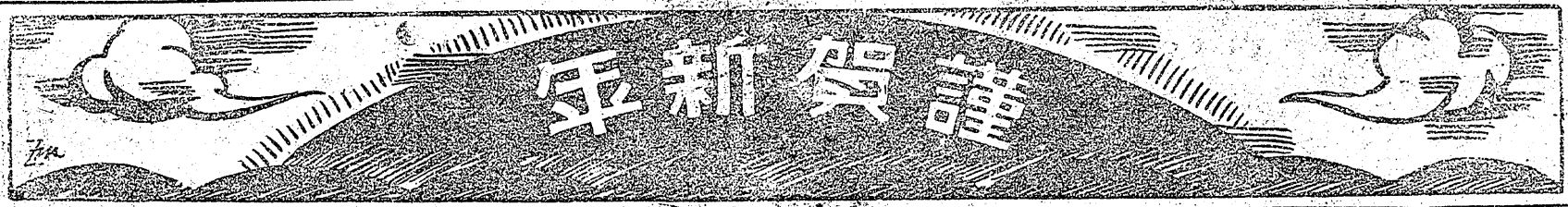
平料理屋組合

平旅館組合

平町西洋料理組合

平三業保健組合

平時計商組合



福島縣 石城支會
町村長會

平町會議員

研究會一同

石城郡内 學校長會

平商友會

顧問 矢野泰次郎
會長 室橋三郎
副會長 比佐三郎

平商業 職員一同

平觀世流研誼會

佐々木龍若

平町 四軒町
電話 二九八番

柏原幸次郎

平町 三丁目

木澤常松

平町 古鍛冶町

最上醬油醸造元
小野園次郎

平町長橋町電話二五一番

久野ひさ

平町 三丁目

櫛田榮太郎

平町材木町

山田忠太郎

平町三丁目

馬目武之助

平新川町

石川義助

平町堂ノ前

土木建築請負業
強口唯七郎

營業所 福島縣平町田町
電話 二八二番

平町搔樋小路
錫製造業ヤスリ販賣
綠川喜三郎

川角兼吉

平町長橋町



明治生命保險株式會社
小野勝康

本社 東京市丸之内(支店)仙臺
市大町五丁目(自宅)平町南町

福島健之

平長橋町

大村一郎

平二丁目電一七五番

金成金三

植田町

日光商會

中野義夫
平三電二九番

華道教授
横山美聲

平南町(平館隣り)

上原家政婦會

平紺屋町電二二番

海産物乾物商
仙臺屋商店

平町長橋町
電話 五四八番

吉村綿店

平町 研町
電話 二五七番

阿部藥舖

平田町
(松月堂向)

白萩酒店

平 研町
電話 四四三番

カレンダー ポスター
山久團扇店

武田 義亮
平紺屋町

福島縣平町二丁目
處方調劑
一般藥品
醫療器械
堀藥局

藥劑師 堀 功
電話 三二六番

鶴屋商店

平町 四丁目
電話 一四〇番

鈴藏魚店

平土橋電六六二番

ハヤシ 婦人洋服店

平三丁目二一

大床號
石崎理髮舖

平 田町
電話 一八八番

ハシモトヤ糸店

平田町電一四番

モリタヤ洋品店

平 五丁目
電話 三五三番

坂本紙店

平町 一丁目
電話 一八八番

大黒屋洋品店

平町 三丁目
電話 一六六番

星チキリストアト平支部
ホシ藥舖

平三丁目電四二九番

横山 介商店

平町 三丁目
電話 九四番

關内精米所

平町長橋町
電話 三八九番

平搾乳所

平仲間町九品寺前
電話 二六八番

加藤自轉車店

平町長橋町

關内藥局

藥劑師 關内 榮助
福島縣平町四丁目
電話 四〇番

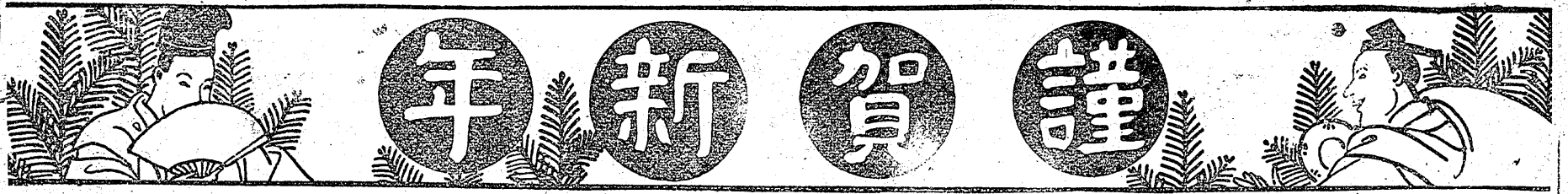
阿部材木店

平町紺屋町
電話 四九四番

平驛前
昭和 タクシー

電三四三六五九





貴族院議員 金成通 衆議院議員 比佐昌平 衆議院議員 佐藤庄太郎 衆議院議員 鈴木辰三郎	木村清治	阿部政右衛門 <small>平町搔樋小路 電話二三七番</small>	安島重三郎 <small>平町長</small>	青沼鋒太郎 <small>平町長</small>	關内正一 <small>土木建築 請負業</small> 江口忠一 <small>平町搔樋小路 電話五一九番</small>	古川傳一 <small>植田町長</small>	山崎登 <small>石城郡錦村</small>	中山組 <small>土木建築請負業</small> <small>事務所 福島縣石城郡川部村 福島縣石城郡植田町本町 貨物自動車運輸部 電話五五五番</small>
---	-------------	---	------------------------------------	------------------------------------	---	------------------------------------	------------------------------------	--

志賀盛榮 <small>最優最大日本生命保險平代理店 平町四丁目電話二二三番</small>	田邊商店 <small>鑛山、土木諸機械 平 電話二九四番</small>	山田麻袋商店 <small>新古賣買 麻袋 福島縣石城郡内郷村字境 電話一九二番</small>		金成自動車部 <small>平町 鎌田町 平土木監督所 所長</small>	小林清吉 <small>平土木監督所 所長</small>	佐藤三平 <small>石城郡内郷村</small>	會川延太郎 <small>平八保町 電話三六七番</small>
--	---	--	--	--	---	--------------------------------------	--

松屋菓子舗 <small>平町聚樂館隣</small>	關内半平 <small>平町長橋町 電話一六〇番</small>	岡田牛乳舎 <small>平町鎌田町 電話五一番</small>	柏屋染物店 <small>阿部傳六 平町材木町</small>	なかや 洋服店	松崎ガラス 製作所 <small>平新川町</small>	錦水 <small>江戸前料理食堂 割烹 仕出し 電話四五四番</small>	コンパル <small>洋食・喫茶・宴会 電話六六六番</small>	三井質店 <small>平四丁目 電話六〇六番</small>	三井タクシー <small>平二丁目 電話六八五番</small>
---------------------------------------	--	--	---	----------------	---	---	---	---	---

ハツカス <small>平 銀座通り 電話七〇二番</small>	フタバ商會 <small>平新川町 電話三〇二番</small>	伊勢屋 <small>平四丁目 電話四五番</small>	ライト寫眞館 <small>平町大通り 電話五三五番</small>	袋屋果實店 <small>平四電一一一</small>	山崎時計店 <small>時計とメガネ 平町五丁目</small>	水野藥局 <small>平一丁目 電話六九九番</small>	いづみや 玩具店 <small>平 驛前</small>	橋本屋 神佛店 <small>新川町 一六三番</small>
---	--	---	--	---------------------------------------	---	---	--	---

